娘の乳児期からのアトピーと母親の喘息に対して親子で治療を続けた経過（65 歳・37 歳 母親・娘）

症例 ID：001-60-SH3　|　記録日：2016 年 11 月 20 日

1. 診断・治療前経過

母親は若い頃から咳が出やすく、特に冬季の就寝時に喘息症状が強くなることがありました。
娘は生後 2 か月頃からアトピー症状があり、当時は内容を知らないままステロイド外用薬を使用しました。中学生頃には外用薬が効きにくくなりました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	娘が乳児期からステロイド外用薬を使用しました。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	乳児期から中学生頃まで使用した経過があります。
中止時期	松本医院での治療開始前後と考えられますが、詳細は不明です。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後の使用は不明です。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
生後 2 か月頃	娘の発症	娘にアトピー症状が出て、ステロイド外用を開始しました。
中学生頃	外用効果の低下	それまでの外用薬で症状が治まりにくくなりました。
2007 年頃	親子の治療	娘が先に受診し、その後母親も喘息について治療を開始しました。
治療経過中	症状の波	娘は症状の強い波を繰り返しながら治療を続けました。
記録時点	経過中	娘の皮膚状態は整い、アレルギー検査値も低下していました。母親も治療を継続していました。

4. ピーク時期

娘の症状のピーク時期は不明です。乳児期から中学生頃まで皮膚症状が続き、治療経過中にも症状の波がありました。

5. 困りごと

・母親は娘の喘息発作による血圧への影響を心配していました。
・娘は乳児期から長期間にわたり皮膚症状と外用治療を経験しました。

6. 経過のまとめ

娘は症状の波を繰り返しながらも、皮膚状態が整い、アレルギー検査値が低下する変化がみられました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。